

お薬手帳の活用促進事業の 効果解析結果について

1

平成30年度、令和元年度お薬手帳の活用促進事業

【目的】

お薬手帳の持参を促し、薬局における服薬情報の一元管理を促進する。

【取組】

お薬手帳を持参することの意義やメリットについて普及啓発するためのリーフレット及びお薬手帳の持参を促す「ポケット付きお薬手帳ホルダー」(保険証、診察券などと併せてお薬手帳を携行できる)を重複服薬者に送付する。

●送付対象者の抽出条件

後期高齢者医療広域連合被保険者のうち、複数の医療機関から、一月に30日以上同一の医薬品(成分)の処方を受けている者で、以下の者を除く。

- ・がん、認知症、うつ、統合失調症の者
- ・死亡している又は資格喪失している者
- ・住所が県外の者(県外施設入所者)

●抽出期間及び送付者数

- ・平成30年度:2018年4月～7月 10,344名(2018年12月送付)
- ・令和元年度:2019年4月～7月 4,225名(2019年12月送付)

●今後の予定

○効果解析

・送付後、抽出条件該当者の増減や送付対象者のお薬手帳の持参状況を確認。

・**送付対象者の抽出時から1年後、2年後の処方変化を確認。**

・**新しい解析条件の検討。**

○事業の継続

効果解析の結果を踏まえ、抽出条件を検討して新たな対象者に送付を行う(令和2年度)。



解析内容

1. 送付対象者の推移

- ① 「各月における重複該当者」及び「そのうちの送付対象者の割合」の推移
- ② 送付前後の該当月数の変化
- ③ 送付前後の重複該当回数の変化

2. お薬手帳持参状況

- ① お薬手帳持参状況の変化
- ② お薬手帳持参率の変化

3. 重複薬剤の状況

3

解析条件

●定義1

後期高齢者医療広域連合被保険者のうち、集計年の4月から7月までの間に、複数の医療機関から、一月に30日以上同一の医薬品(成分)の処方を受けている者

●定義2(新条件)

後期高齢者医療広域連合被保険者のうち、集計年の連続した3か月(4月～6月又は5月～7月)に、複数の医療機関から、2回以上、同一成分の医薬品の処方を受けている者。

解析期間

●平成30年度送付対象者

抽出:2018. 4~7

送付:2018. 12

送付後の評価:2019. 4~7

送付1年後の評価:2020. 4~7

●令和元年度送付対象者

抽出:2019. 4~7

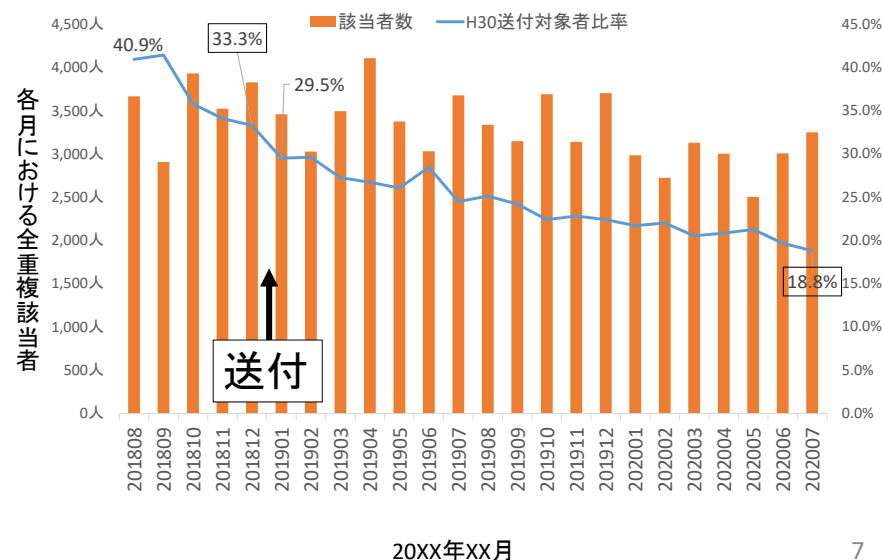
送付:2019. 12

送付後の評価:2020. 4~7

※ 令和2年度第1回協議会では、中間報告として2020. 1~3のデータを報告。

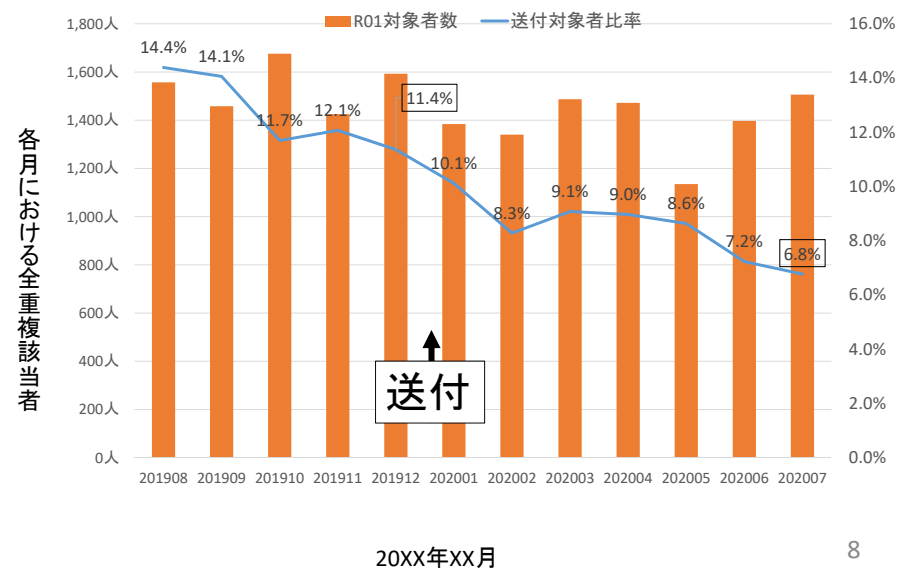
結果①-1

重複該当者及び送付対象者の推移(平成30年度送付)



結果①-2

重複該当者及び送付対象者の推移(令和元年度送付)



1. 送付対象者の推移

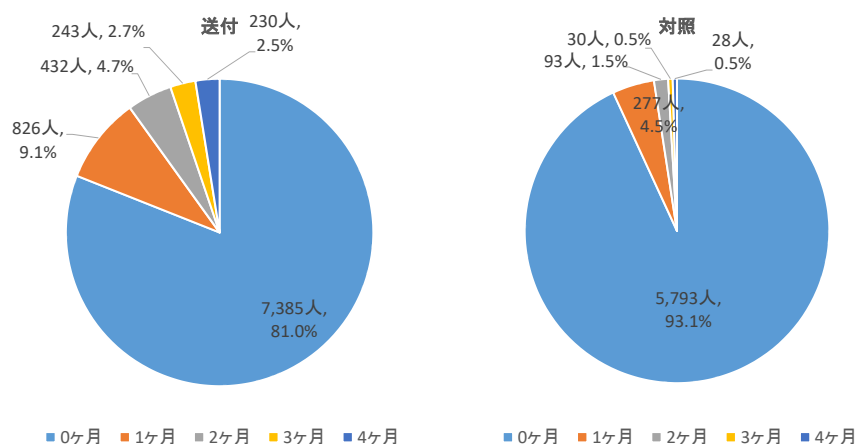
考察①

- 全重複該当者数(送付対象者以外も含む)は、ばらつきがある。
- 一方で、送付対象者の占める割合は、送付※以降、減少傾向が継続して認められた。

※平成30年度送付:2018年12月
令和元年度送付:2019年12月

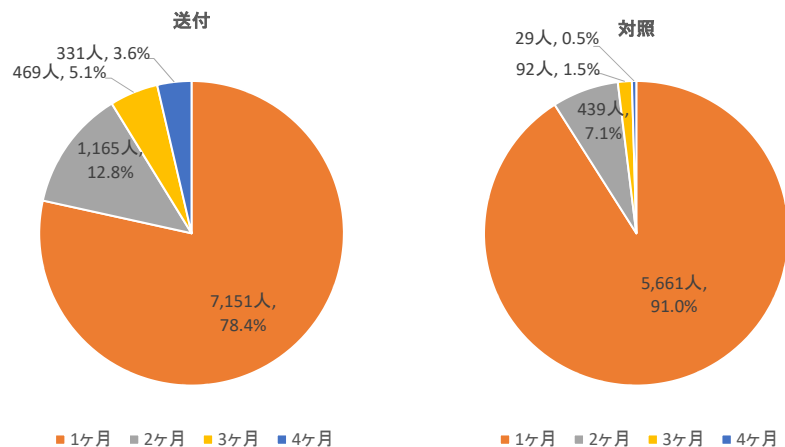
9

結果②-2(平成30年度送付) 送付後の評価期間(2019.4~7)における重複該当月数



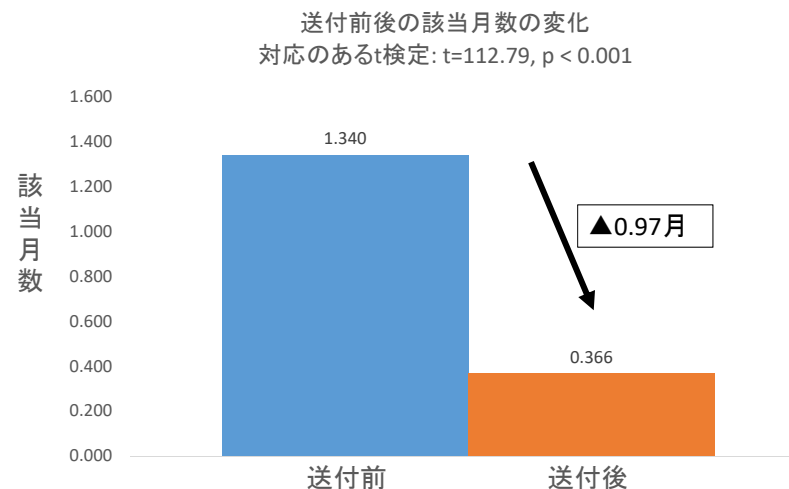
11

結果②-1(平成30年度送付) 送付前の抽出期間※における重複該当月数 ※ 送付群(2018.4~7)、対照群(2018.8~11)



10

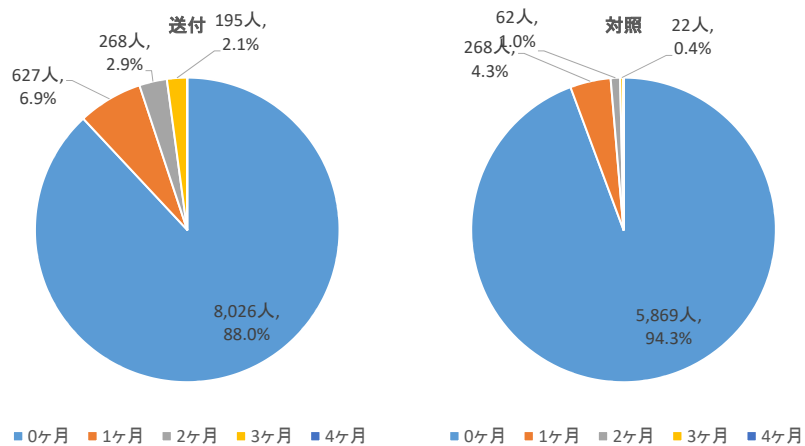
結果②-3 送付群の送付前後の該当月数の変化



12

結果②-4 (平成30年度送付)

送付1年後の評価期間(2020.4~7)における重複該当月数

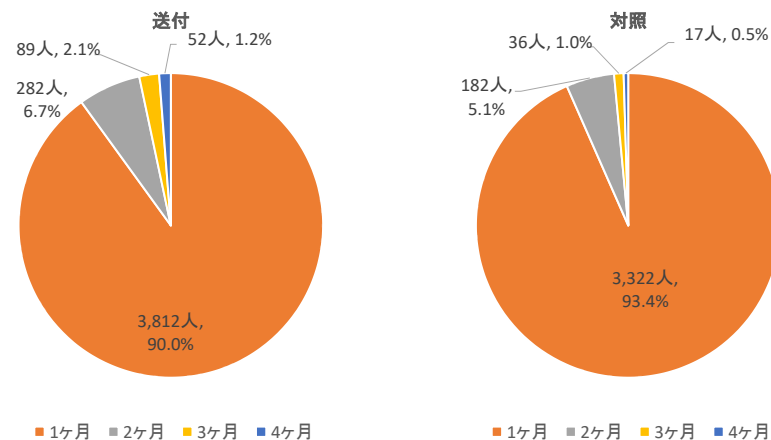


13

結果②-6 (令和元年度送付)

送付前の抽出期間※における重複該当月数

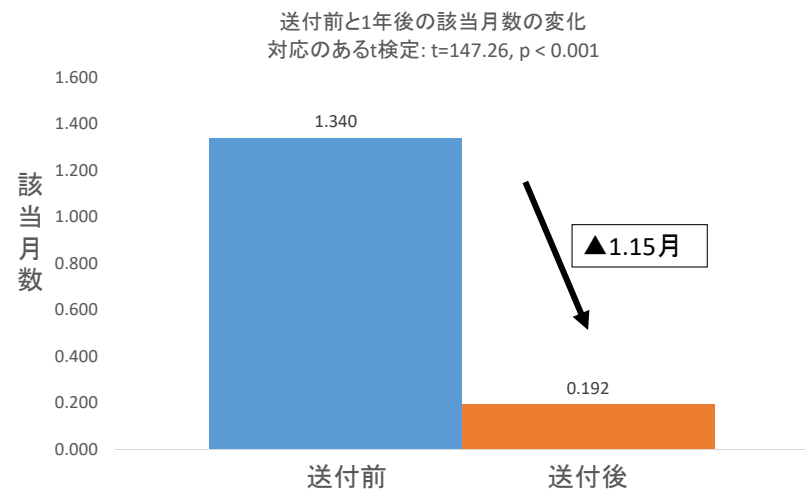
※ 送付群(2019.4~7)、対照群(2019.8~11)



15

結果②-5

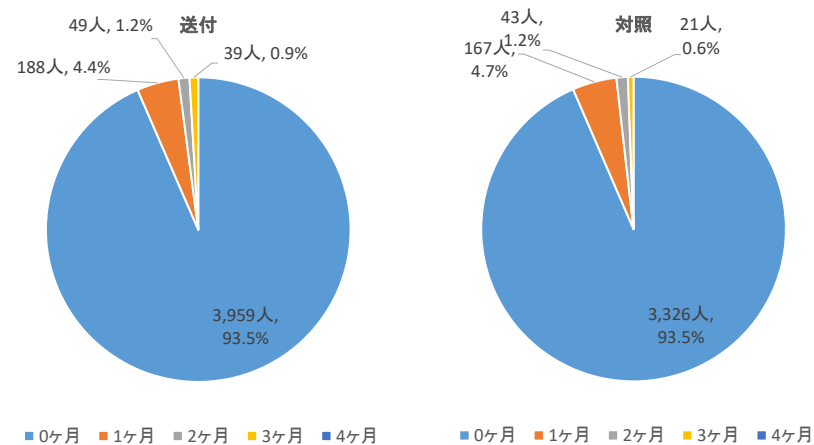
送付群の送付前と1年後の該当月数の変化



14

結果②-7 (令和元年度送付)

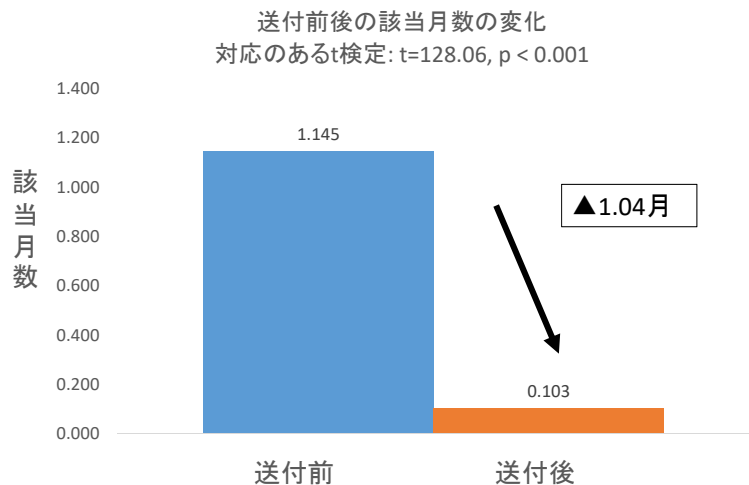
送付後(2020.4~7)における重複該当月数



16

結果②－8

送付群の送付前後の該当月数の変化



17

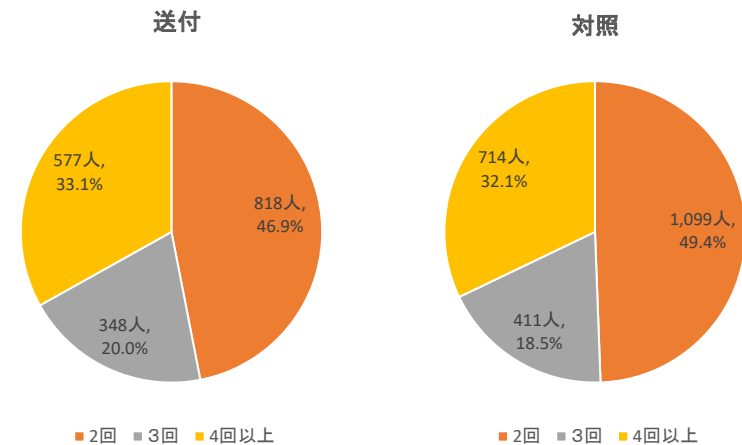
考察②

- 送付前後の値を、t検定の結果、いずれも有意差が得られた($p < 0.001$)。
- H30年度送付対象者は、送付前後で0.97か月、1年後は1.15か月程度の重複該当月数の減少がみられた。
- R1年度送付対象者は、送付前後で1.04か月程度の重複該当月数の減少がみられた。

18

結果③－1 (新条件:平成30年度送付)

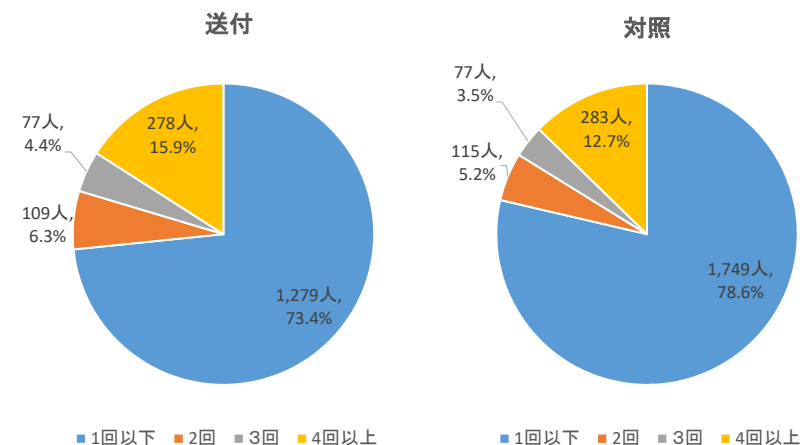
送付前の抽出期間(2018年4月～7月)における重複該当回数



19

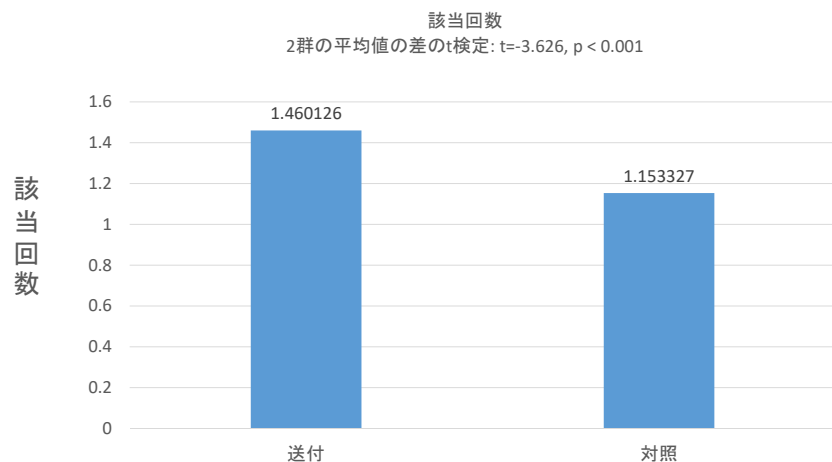
結果③－2 (新条件:平成30年度送付)

送付後の評価期間(2019年4月～7月)における重複該当回数



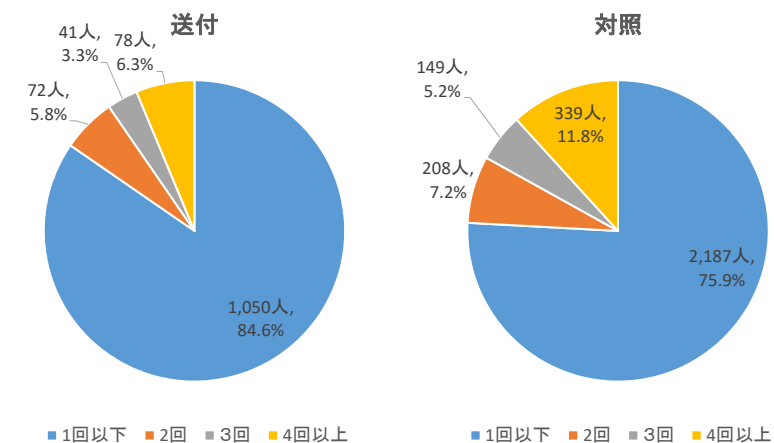
20

結果③-3 (新条件:平成30年度送付) 送付後の2群の該当回数(平均値)



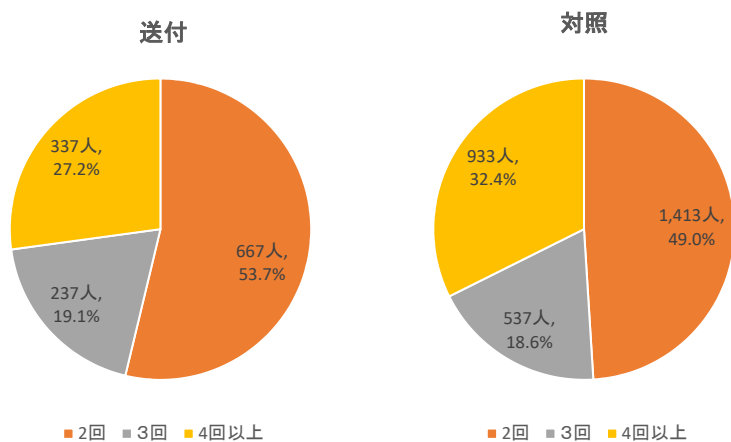
21

結果③-5 (新条件:令和元年度送付) 送付後の評価期間(2020年4月~7月)における重複該当回数



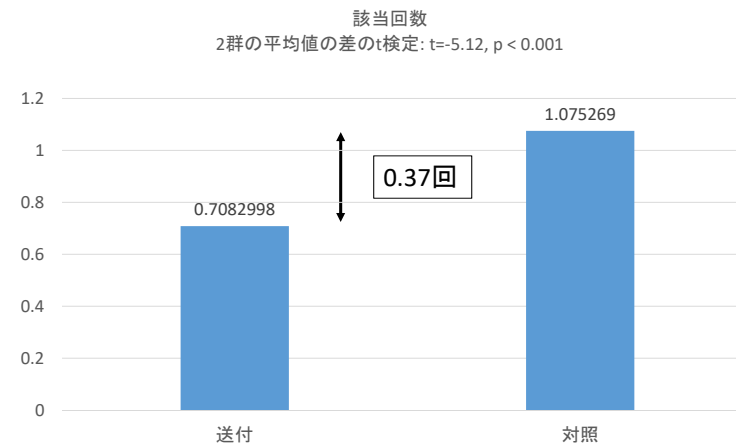
23

結果③-4 (新条件:令和元年度送付) 送付前の抽出期間(2019年4月~7月)における重複該当回数



22

結果③-6 (新条件:令和元年度送付) 送付後の2群の該当回数(平均値)



24

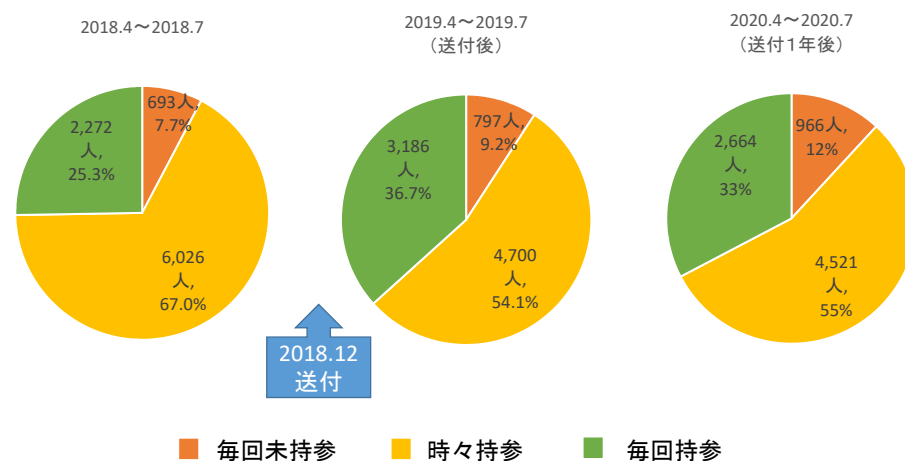
考察③

- (H30年度)送付群及び対照群も、2回以上重複該当回数があった者は、送付後に大きく減少し、約75%が1回以下となった。
- 送付後の2群の比較では、対照群のほうが少なかった。
- (R1年度)送付群及び対照群も、2回以上重複該当回数があった者は、送付後に大きく減少し、約80%が1回以下となった。
- 送付後の2群の比較では、送付群が有意に少なかった(-0.37回)。

25

結果①-1

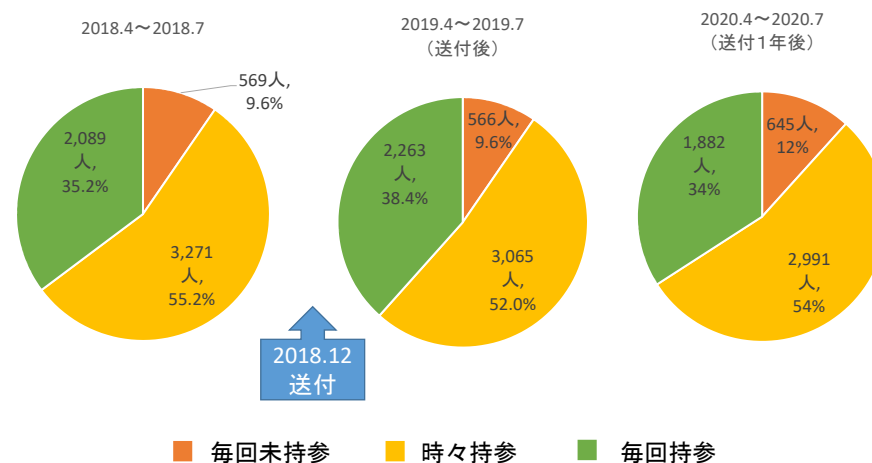
平成30年度送付群のお薬手帳持参状況変化



27

結果①-2

平成30年度対照群のお薬手帳持参状況変化

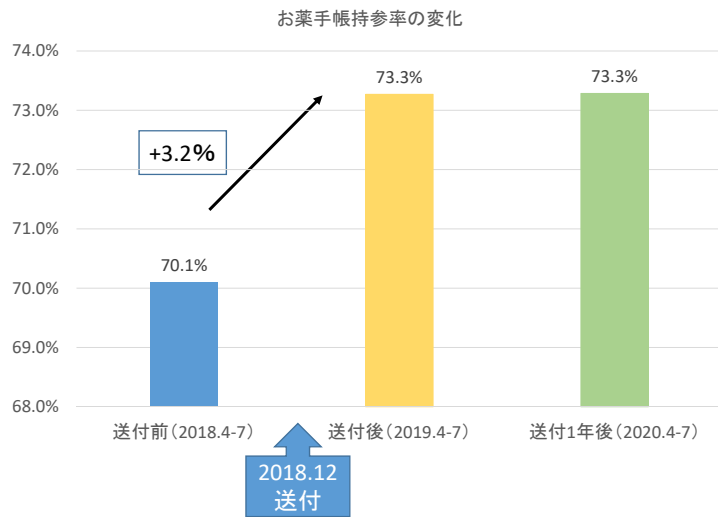


28

2. お薬手帳持参状況

26

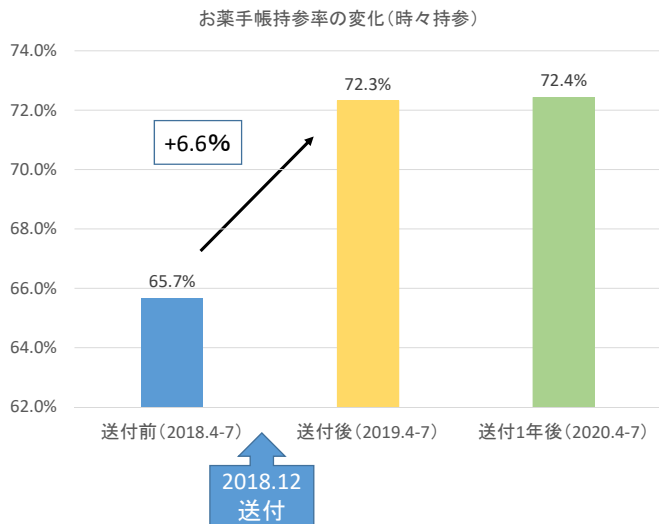
結果①-3 (平成30年度)
送付対象者の送付前後のお薬手帳持参率※の変化
 ※持参回数/来局回数(毎回持参は100%)



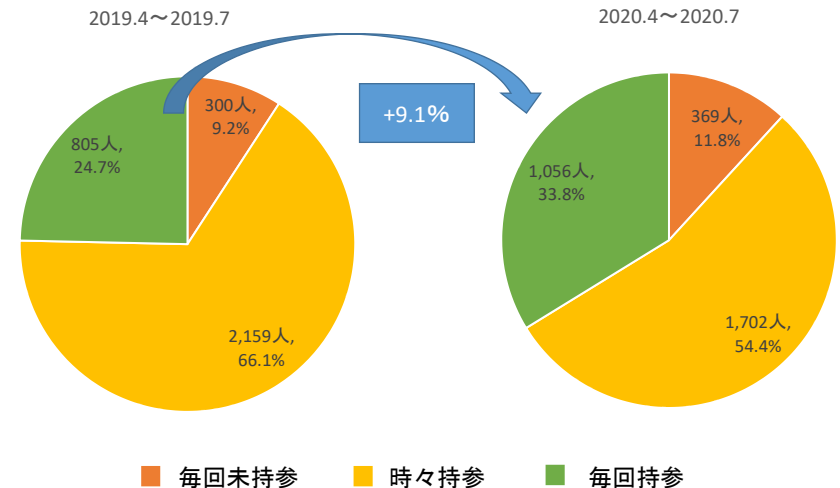
考察① (平成30年度)

- 送付群、対照群ともに、毎回未持参の患者割合は減少がみられず、両群との間に差はほとんどみられなかった。
- 送付対象者は、送付後にお薬手帳持参率が増加していた(+3.2%)。送付1年後も同じ割合で持参していた。
- 送付対象者のうち、“時々持参”群に絞ってみると、送付後に有意に増加し(+6.6%)、1年後も変化はなかった。

結果①-4 (平成30年度)
送付対象者のうち手帳を“時々持参”した者の送付前後のお薬手帳持参率の変化

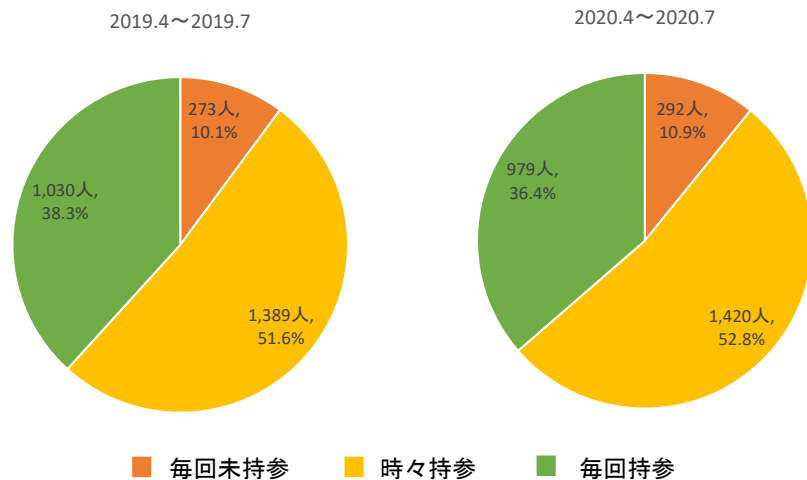


結果②-1
令和元年度送付群のお薬手帳持参状況変化



結果②-2

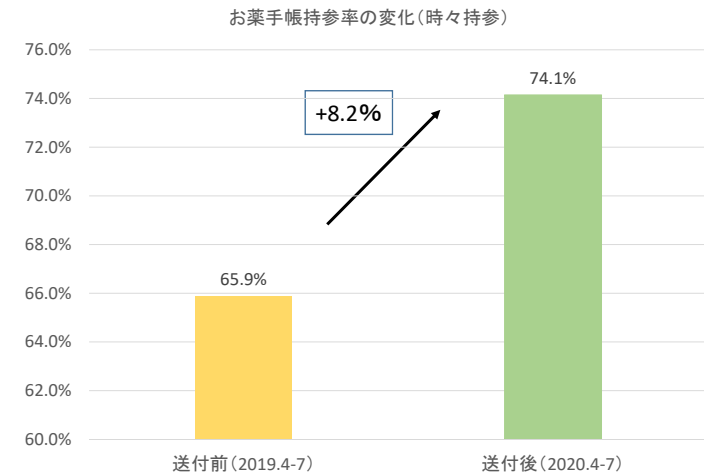
令和元年度対照群のお薬手帳持参状況変化



33

結果②-4 (令和元年度)

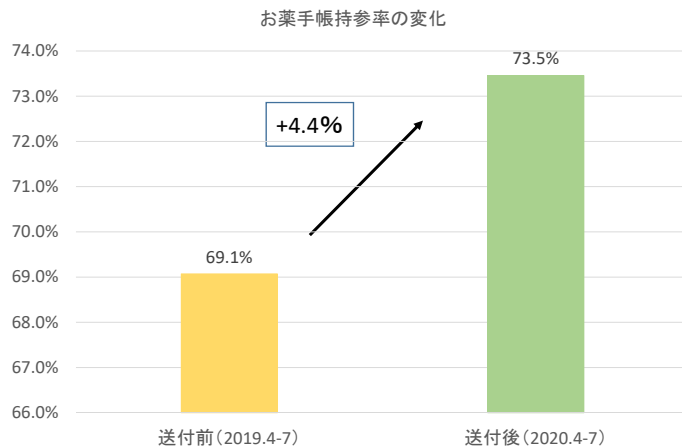
送付対象者のうち手帳を“時々持参”した者の送付前後のお薬手帳持参率の変化



35

結果②-3 (令和元年度)

送付対象者の送付前後のお薬手帳持参率※の変化 ※持参回数/来局回数(毎回持参は100%)



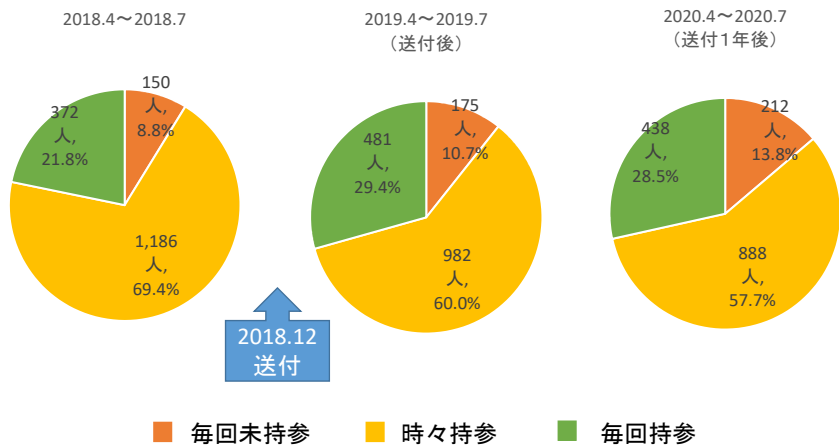
34

考察②(令和元年度)

- 送付群、対照群ともに、毎回未持参の患者割合は減少がみられず、両群との間に差はほとんどみられなかった。
- 送付群は、毎回持参の患者割合は9.1%増加しているが、対照群では減少していた。
- 送付対象者は、送付後にお薬手帳持参率が増加していた(+4.4%)。
- 送付対象者のうち、“時々持参”群に絞ってみると、送付後に有意に増加していた(+8.2%)。

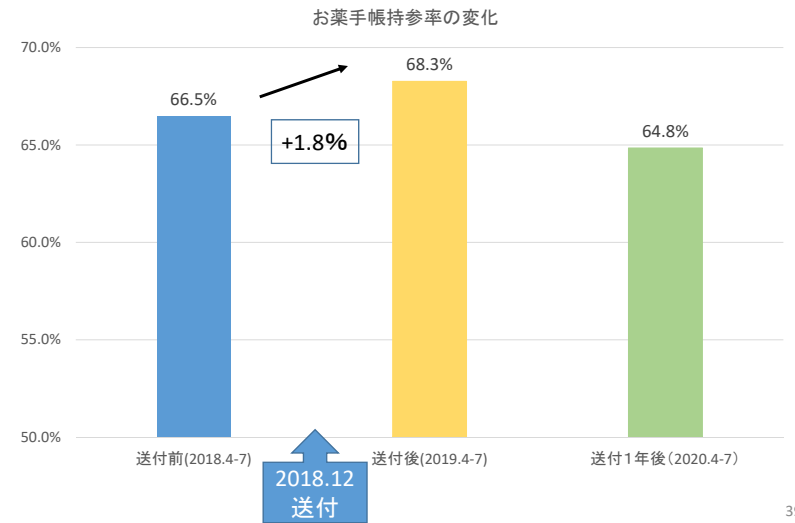
36

結果③-1(新条件) 平成30年度送付群のお薬手帳持参状況変化



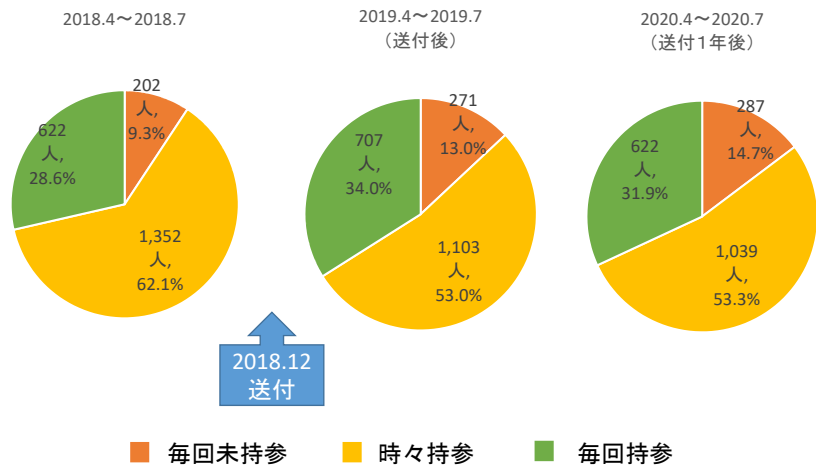
37

結果③-3(新条件:平成30年度) 送付対象者の送付前後のお薬手帳持参率※の変化 ※持参回数/来局回数(毎回持参は100%)



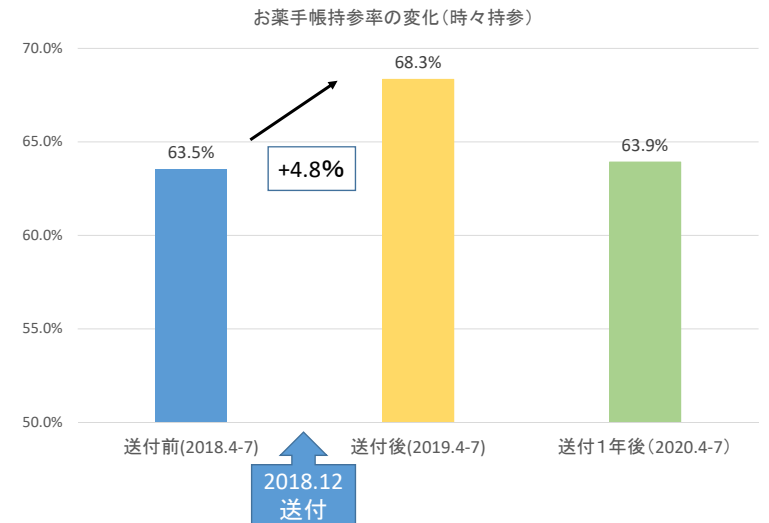
39

結果③-2(新条件) 平成30年度対照群のお薬手帳持参状況変化



38

結果③-4(新条件:平成30年度) 送付対象者のうち手帳を“時々持参”した者の 送付前後のお薬手帳持参率の変化

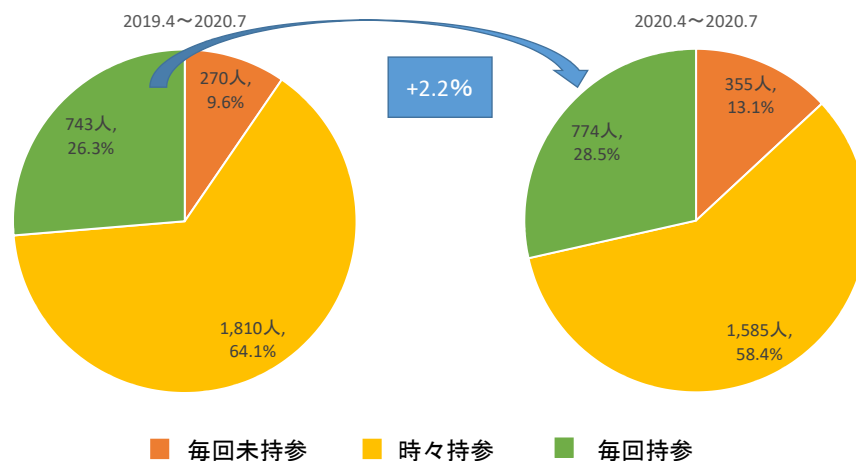


40

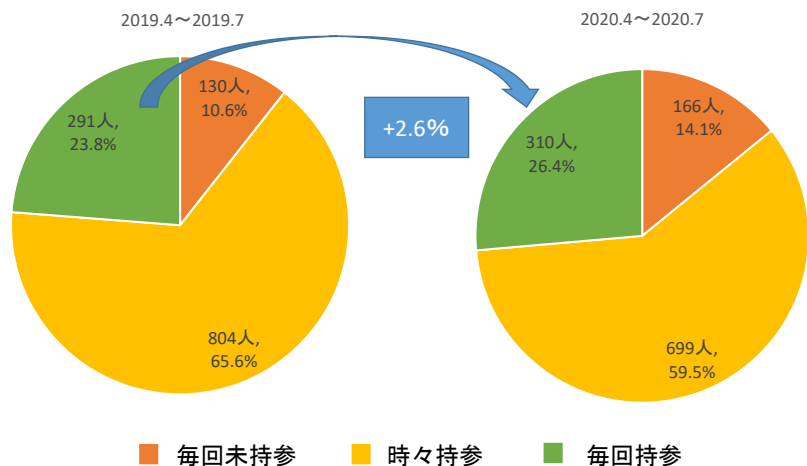
考察③(新条件:平成30年度)

- 送付群、対照群ともに、毎回未持参の患者割合は減少がみられず、両群との間に差はほとんどみられなかった。
- 送付対象者は、送付後にお薬手帳持参率が増加していたが(+1.8%)、送付1年後は送付前よりも持参率が減少していた。
- 送付対象者のうち、“時々持参”群に絞ってみると、送付後に有意に増加していたが(+4.8%)、送付1年後は送付前と同水準に戻っていた。

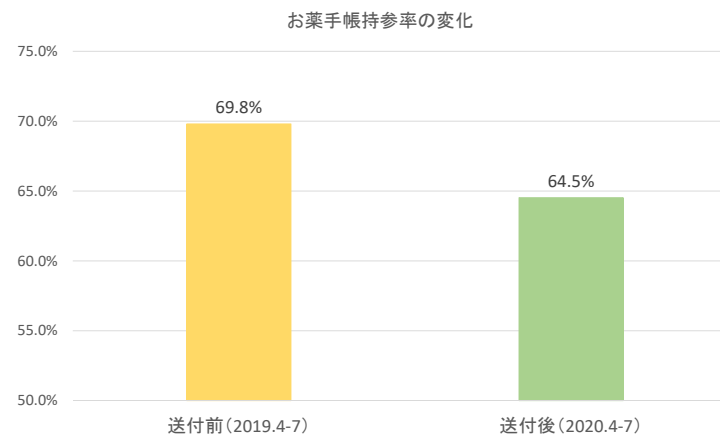
結果④-2(新条件) 令和元年度対照群のお薬手帳持参状況変化



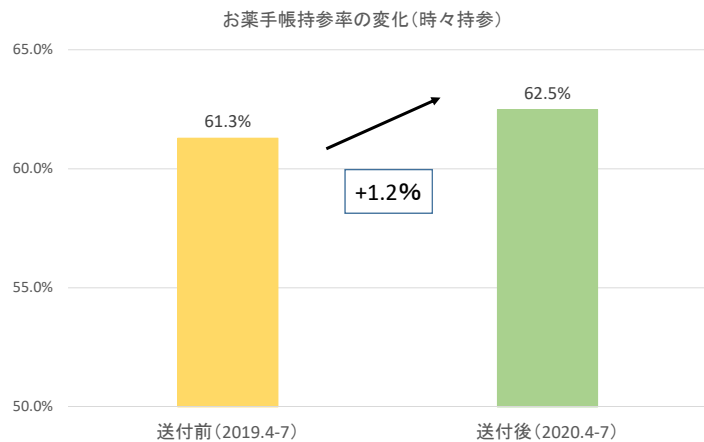
結果④-1(新条件) 令和元年度送付群のお薬手帳持参状況変化



結果④-3(新条件:令和元年度) 送付対象者の送付前後のお薬手帳持参率※の変化 ※持参回数/来局回数(毎回持参は100%)



結果④一4 (新条件: 令和元年度)
 送付対象者のうち手帳を“時々持参”した者の
 送付前後のお薬手帳持参率の変化



45

3. 重複薬剤の状況

47

考察④(新条件: 令和元年度)

- 送付群、対照群ともに、毎回未持参の患者割合は同程度増加していた(+3.5%)。
- 毎回持参の患者割合は、送付群で2.6%増加、対照群で2.2%増加していた。
- 送付対象者のうち、“時々持参”群に絞ってみると、送付後に有意に増加していた(+1.2%)。

46

送付前の重複該当者数上位20の医薬品(H30・R1)

高齢者の医薬品適正使用の指針(総論編)		種類	医薬品名
別表1	催眠鎮静薬	BZD系催眠薬	プロチゾラム、トリアゾラム
		非BZD系睡眠薬	ゾルピデム
	抗不安薬	BZD系	エチゾラム
	高血圧治療薬	Ca拮抗薬	アムロジピン
		B遮断薬	ビソプロロール
	脂質異常症治療薬	スタチン	ロスバスタチン
	消化性潰瘍治療薬	PPI阻害薬	エソメプラゾール、ランソプラゾール
		H2受容体拮抗薬	ファモチジン
消炎鎮痛薬	NSAIDs	セレコキシブ、ロキソプロフェン	
	非NSAIDs	アセトアミノフェン	
緩下薬		酸化マグネシウム	
別表2	骨粗鬆治療薬	活性型VD3製剤	エルデカルシトール
	利尿薬	ループ利尿薬	フロセミド
その他			レバミピド、アスピリン、プレガバリン、メコバラミン、芍薬甘草湯、フェブキソスタット、リマプロスト、センシド

※ H30のみ: 黒字、R1のみ: 青色、H30・R1共通: 赤字

48

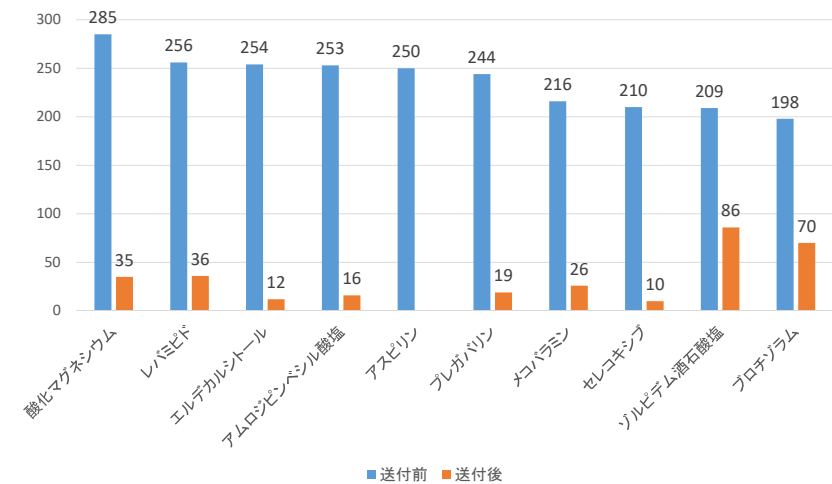
重複該当者数上位20に占める高齢者に処方時に注意を要する薬剤(別表1及び別表2)の変化

	送付前	送付後	送付1年後
H30	別表1 14 別表2 1 (全体20)	別表1 11 別表2 1 (全体21)	別表1 13 別表2 2 (全体26)
R1	別表1 12 別表2 2 (全体21)	別表1 14 別表2 2 (全体24)	

※上位20は、重複該当者数が同一の薬が複数あるため全体数が異なる。

49

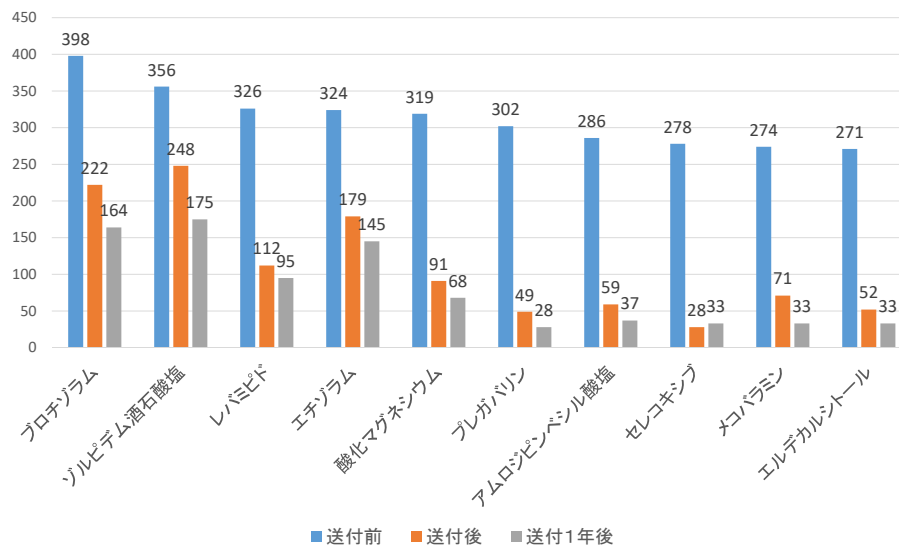
重複該当者数上位10医薬品(R1)



※アスピリンは、送付後は、重複該当者数上位圏外(21位以下、8名以下)

51

重複該当者数上位10医薬品(H30)



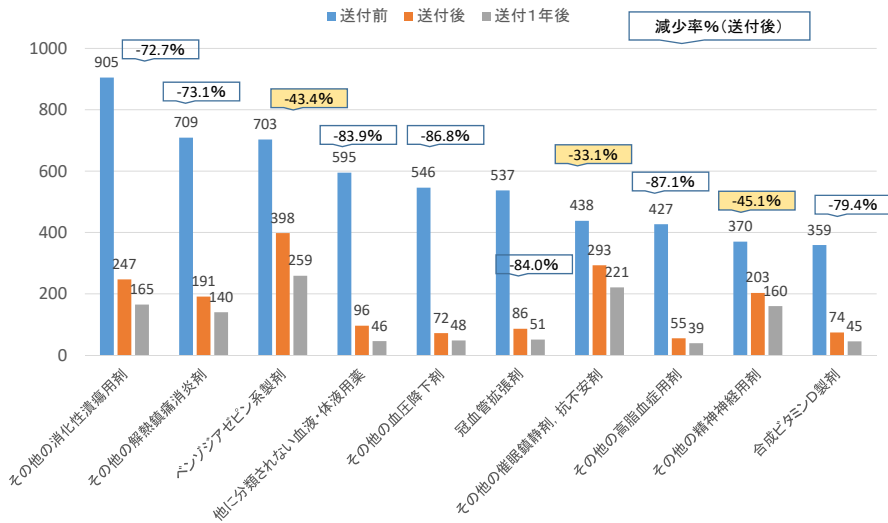
50

考察①

- H30年度、R1年度の重複該当者数上位20の医薬品に大きな相違は認められなかった。
- 高齢者に慎重に投与すべき薬が、上位20品目の半数以上を占めている。送付前後で半数以上を占めることには変わりはなかった。
- その他の特に慎重な投与を要する薬のエルデカルシトールやフロセミドが上位に入っている。
- 送付前に上位に入っていた高齢者に慎重に投与すべき薬は、送付後に減少していた。プロチゾラム、エチゾラム、ゾルピデムの減少率が低かった。

52

重複した薬効分類の種類及び重複該当者数の変化(H30)



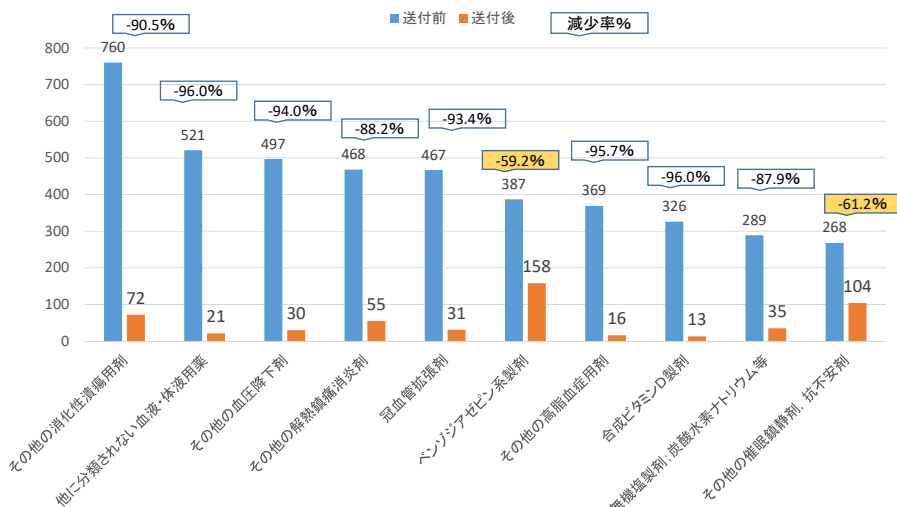
53

考察②

- H30年度、R1年度ともに、薬効分類別では、重複処方されたのは、「消化性潰瘍用剤」が最も多かった。
- 「消化性潰瘍用剤」は、疾患横断的に使用されていることから、上位になっていると考えられる。
- 「BZD系」や「その他の催眠鎮静剤・抗不安剤」の減少率が低かった。

55

重複した薬効分類の種類及び重複該当者数の変化(R1)



54

処方医療機関数別の重複該当者数の変化(H30)

高齢者の医薬品適正使用の指針 別表1

高齢者の医薬品適正使用の指針 別表2

医療機関	送付前		送付後		送付1年後		
	一般名	重複該当者数	一般名	重複該当者数	一般名	重複該当者数	
1	フロチゾラム	372	ゾルピデム酒石酸塩	234	ゾルピデム酒石酸塩	163	
	ゾルピデム酒石酸塩	336	フロチゾラム	215	フロチゾラム	154	
	レバミピド	320	エチゾラム	168	エチゾラム	137	
	2 酸化マグネシウム	315	ロキソプロフェンナトリウム水和物	108	レバミピド	95	
	エチゾラム	310	レバミピド	107	ロキソプロフェンナトリウム水和物	85	
	医療機関	フレガバリン	296	トリアゾラム	94	センゾド	76
	アムロジピンベシル酸塩	283	酸化マグネシウム	91	酸化マグネシウム	66	
	セロキシブ	271	センゾド	73	トリアゾラム	48	
	エルテカルシトール	271	メコバロミン	71	アセトアミノフェン	40	
	メコバロミン	271	アムロジピンベシル酸塩	59	アムロジピンベシル酸塩	37	
2	ロキソプロフェンナトリウム水和物	233					
	フロチゾラム	26	ゾルピデム酒石酸塩	14	ゾルピデム酒石酸塩	11	
	ゾルピデム酒石酸塩	20	エチゾラム	10	フロチゾラム	10	
	エチゾラム	14	フロチゾラム	7	エチゾラム	8	
	ロキソプロフェンナトリウム水和物	8	レバミピド	5	エナラプリルマレイン酸塩	4	
	レカルボシステイン	7	エスゾピクロン	5	フルニトラゼパム	4	
	3 SG配合顆粒	6	アセトアミノフェン	4	ロキソプロフェンナトリウム水和物	3	
	レバミピド	6	ゾピクロン	4	テラレノン	3	
	4 フレガバリン	6	フルニトラゼパム	4	クロチアゼパム	3	
	医療機関	フルニトラゼパム	4	ニフェジピン	3	アズレンスルホン酸ナトリウム水和物-レグルタミン	3
酸化マグネシウム	4	クロチアゼパム	3	アセトアミノフェン	2		
アセトアミノフェン	4	SG配合顆粒	2	センゾド	2		
4 エナラプリルマレイン酸塩	4	トラネキサム酸	2	2 コフェロールニコチン酸エステル	2		
フェキソフェナジン塩酸塩	4	トリアゾラム	2	2 ベタヒスチンメシル酸塩	2		
トリアゾラム	4	フレガバリン	2	2 酸化マグネシウム	2		
		ベボタステンベシル酸塩	2				
		ロキソプロフェンナトリウム水和物	2				
		芍薬甘草湯	2				

※ 5医療機関以上は該当なし

56

処方医療機関数別の重複該当者数の変化(R1)

高齢者の医薬品適正使用の指針 別表1

高齢者の医薬品適正使用の指針 別表2

送付前		送付後	
一般名	重複該当者数	一般名	重複該当者数
酸化マグネシウム	283	ゾルピデム酒石酸塩	77
エルデカルシトール	254	プロチゾラム	64
アムロジピンベシル酸塩	252	エチゾラム	53
アスピリン	250	トリアゾラム	44
レバミピド	250	レバミピド	36
フレガバリン	238	酸化マグネシウム	35
メコバラミン	210	ロキソプロフェンナトリウム水和物	30
セレコキシブ	207	メコバラミン	25
プロチゾラム	192	フロセミド	24
ゾルピデム酒石酸塩	189	アセタミノフェン	24
フロセミド	177	フルニトラゼパム	21
ゾルピデム酒石酸塩	16	プロチゾラム	6
ロキソプロフェンナトリウム水和物	14	ロキソプロフェンナトリウム水和物	6
トリアゾラム	9	ゾルピデム酒石酸塩	5
L-カルボシステイン	6	フルニトラゼパム	4
アセタミノフェン	6	トリアゾラム	4
レバミピド	6	メカルバモール	3
プロチゾラム	6	乳糖水和物	3
フレガバリン	6	クロルジアゼポキシド	3
メコバラミン	6	カフェイン	3
エチゾラム	5	エチゾラム	2
		ゾピクロン	2
		L-カルボシステイン	2
		ベタヒスチンメシル酸塩	2
		バルプロ酸ナトリウム	2
ゾルピデム酒石酸塩	4	ゾルピデム酒石酸塩	4
エチゾラム	1	エチゾラム	2
クロルジアゼポキシド	1	カフェイン	1
乳糖水和物	1	クロルジアゼポキシド	1
メカルバモール	1	ロキソプロフェンナトリウム水和物	1
ロキソプロフェンナトリウム水和物	1	乳糖水和物	1
		メカルバモール	1

57

(参考)

お薬手帳ホルダー送付時のアンケート

質問	R1年度 (n=1841)		R2年度 (n=1241)		
Q.送られてきたお薬手帳ホルダーを利用しますか					
A.利用する	79.5%		81.3%		
Q.今後、病院や薬局にお薬手帳をどのようにして持って行くか。					
A1.2冊以上あるお薬手帳をまとめて持って行く	121名	6.6%	7.4%	109名	8.8%
A2.今までどおりの方法で持って行く	14名	0.8%		9名	0.7%
	1317名		71.5%	883名	71.2%
A1+A2(同じ1冊を持って行く又は2冊以上をまとめる、複数全てを持って行く)	78.9%		80.7%		

58

考察③

- 複数医療機関から重複処方された薬の上位は、別表1の薬が多かった(約6割)。
- 処方箋発行元医療機関数が2機関、3~4機関で重複処方されている場合、催眠鎮静・抗不安薬、降圧薬、消炎鎮痛薬、緩下薬が多く重複処方されていた。
- 送付後に重複該当者数は減少していたが、慎重投与薬が占める割合に減少は見られなかった。
- 5機関以上重複処方されている場合、催眠鎮静・抗不安薬が処方されており、送付後の減少は見られなかった。